

予算審査特別委員会

＝審議を尽くした2日間＝

新年度予算は議員全員で構成する予算審査特別委員会(西笠委員長)に付託され3月12・14日の2日間で審査されました。

質疑内容の要約は次のとおりです。

一般会計

■総務費(歳出)

Q 藤田委員

①防犯協会運営補助金(200万円)について、防犯灯の助成に対する内容を伺う。

②地域イノベーション事業委託360万円について、新しい製品の開発など多岐にわたると思うが、どのようなことを主体に考えているのか。

A 門脇総務課長

①防犯協会へは例年100万円の補助金を交付していたが、24年度以降、防犯灯の新設・改修を含め、

LED化したものについて半額補助を行うという考えから、100万円を増額している。

A 杉本企画室長

②地場産業の活性化と当然連動する必要がある、

本町の優れた農業・漁業の新たな商品開発や地産地消に向けた町民、生産者のニーズ調査を行う。

将来的に6次産業化を視野に入れ、本町の特産物としてどのようなものを築き上げるかという意向調査が主な内容。

Q 向井委員

高齢者日常サポート事業の対象範囲を拡大(75歳↓65歳)するということであるが、利用頻度の増大による対応や営業業者への影響はどのように考えているのか。また、

事業の内容をよく理解していない高齢者も見受け

られ、もっと理解し易いPRをすべきと思うが。

A 関町長

近所のお年寄りが同じ目的で外出するときは同乗するなど、できるだけ柔軟に対応したい。また、利用目的をある程度絞ることにより、営業業者への影響はそれほどないと考えている。

A 杉本企画室長

PRについては分かり易く理解いただけるよう「お役所用語」を使うのではなく、お年寄りの感性に近い形で、行っていきたい。

て伺う。

A 杉本企画室長

生活路線維持費で従来から2社に交付を行っていた補助金が880万円。旧国鉄羽幌線代替輸送確保のため、バス2台の更新にかかる小平町の負担分として510万円となっている。

Q 工藤委員

防災無線保守委託(220万円)・防災情報施設伝達管理委託(15万円)・無線システム普及支援事業補助金(18万円)の関係性は、

A 杉本企画室長

平成16年の台風・地震災害を受け設置した防災無線が、設置後5年が経過し、保守をお願いするもの。情報伝達施設管理については、ツイーンピーチに2基の防災無線が設置されており、これは道所有のため、道から管理料の交付を受け、別契約により行う内容であるが、

基本的には町の防災無線

と一体的に稼働している。普及支援については地デジ難視聴地区で整備した共聴設備の維持費について、加入者で補えない部分で町が助成を行うものである。

Q 村井委員

今冬は猛吹雪が多く、道路閉鎖(国道)によりバスの運行が止まり、鬼鹿方面へ帰る生徒が小平市街に取り残され、やむなく知人宅へ一時避難したということも聞いている。こうした場合、町として避難場所の確保など、どのように考えているか。

A 関町長

文化センターや公民館を一時避難場所として開放することになっているが、猛吹雪によるこのたびの道路閉鎖・解除、またバス運行の停止・再開については、それぞれの管理者が判断することから、町が一体的に情報を統制することはなかなか難しい面もある。今後は

今冬の教訓を活かし、各機関との連携、情報の伝達も含め、どのような対策を講ずるべきか協議したい。



■民生費(歳出)

Q 山内委員

道総合在宅ケア事業団年会費で70万円計上されているが、実際どのような事業が行われているのか。

A 吉田保健福祉課長

道内の訪問看護ステーションの本部となっており、本町にもサブステーション(デイサービスセンター)という形で設置されている。医師の指示で看護師が直接在宅訪問するなど、小規模の町村



Q 東海林委員

生活路線維持等補助金1390万円の事業内容について